

# 国語

## 1. 傾向

H. 26 年 9 月（第 4 回）より北辰テストの国語は大問 5 問で構成されています。大問 1 は小説（文学的文章）、大問 2 は漢字・語句・文法問題、大問 3 が説明文（説明的文章）、大問 4 が古文の読解問題、大問 5 作文という配点・問題形式は公立高校入試を意識したものになっています。（今年度も変わらずこの形式）

◎大問ごとにみると下記の表のようになります。（問題数は、H. 28 年 4 月第 1 回の北辰テストを参考）

大問	1	2	3	4	5
内容	文章読解 (文学的文章)	漢字・語句・文法	文章読解 (説明的文章)	古文読解	作文
配点	25 点	22 点	25 点	12 点	16 点
問題数	5 問	9 問	5 問	4 問	1 問

## 2. 学習の取り組み方と志英館の取り組み

まずは昨年 H. 27 年の出題をよく確認しましょう。ここから今年はどうな出題があるか予想できます。

大問	1	2	3	4	5
9 月 ~12 月	読解（文学的文章）	漢字・語句・文法	読解（説明的文章）	古文	作文

大問 1・3 の文学的文章と説明的文章の文章読解は例年問題文だけで、あわせて約 4,000 文字と文章量がかなり多くなっています。本文からの書き抜きの問題が出題されるので、問題文を読まずに解いても高得点はとれません。そのため、すばやく文章の内容を把握するためにも「速く」「正確」に読むことが大切になります。「速く」「正確」に読むためには、毎日の音読と読書が必要です。また、公立高校入試を意識して、「〇〇字以上〇〇字以内で書きなさい。」といったような記述問題も必ず出題されています。対策としてはこういった形式の問題に数多く触れておくことが重要です。（書き抜き問題ではないので、注意。）

漢字・語句・文法は、覚えていれば答えられる問題が必ず出題されます。志英館では、夏期合宿中に知識事項の総チェックを行ないます。解くために必要なことを覚えてしまいましょう。漢字・類義語・対義語・四字熟語の問題は全部で 13 点と配点が高く、漢検 3 級～準 2 級相当の漢字が出題されているため、検定の取得も不可欠になります。苦手な人は志英館でのテストや北辰テスト、各種過去問などを解いて間違った問題をノートや単語カードにまとめ、何回も復習しましょう。

## 3. アドバイス

問題を解答する順に気をつけましょう。配点の高い問題から順番に何度も本番の試験を想定して練習しておきましょう。これだけの問題数を 50 分で解くには時間配分に気をつけなければなりません。

【解答順番】

- ①【漢字・語句・文法】・【作文】 ②【文章読解（説明的文章・文学的文章）】 ③【古文】

## 4. 高得点の秘訣

文章読解が解けるようになるのは当然ですが、それ以上に暗記できていれば解ける問題を落とさないことです。特に漢字・語句・文法、作文は、必ず出題されますが、配点が全部で 38 点と、この 2 つの単元が解けるだけで 40 点近く取れます。これを逃さないためにも、日々の反復練習が必要なので準備をしておきましょう。また、作文は基本的なパターンが自分の中で作れば確実に点数が取れます。中には作文をどのように書いたらよいかわからず、何も書かない生徒もたまにいます。作文はテーマによって書けなくなるということがないように、過去問題などを利用していろいろなパターンの作文を解くように心がけましょう。（作文は 13 行以上書かないと、大幅減点になりますので、そこも注意して練習しよう）

※参考資料 作文で満点をとれた場合（16 点）ととれなかった場合の比較。（H. 27 年 12 月テスト点数を参考）

作文なし点数	偏差値		作文あり点数	偏差値
50 点	45.3	→	66 点	54.9
60 点	51.3	→	76 点	61.0
70 点	57.3	→	86 点	67.0

◎作文をしっかり書けた人と書けなかった人では、偏差値の差が約 10、変化することがわかる。